

D I ニュース

薬剤部 薬品情報係

新規採用医薬品通知

(薬品名)	ナゾネックス点鼻液 50 μ g 56噴霧用
(英名)	Nasonex
(規格・含有量)	1本 56回噴霧(10g) モメタゾンフランカルボン酸エステルとして10g中:5mg 1回噴霧中:50 μ g
(一般名)	モメタゾンフランカルボン酸エステル水和物点鼻液
(メーカー名)	Mometasone Furoate Hydrate シェリング・プラウ
【薬価収載日】	2008年9月
【薬価】	1本:1947.40
【薬効コード】	871329
【薬効分類名】	定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤
効能・効果	アレルギー性鼻炎
用法・用量	通常、成人には、各鼻腔に2噴霧ずつ1日1回投与する(モメタゾンフランカルボン酸エステルとして1日200 μ g)
禁忌	1. 有効な抗菌剤の存在しない感染症、全身性の真菌症の患者 2. 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
相互作用	なし
副作用	重大な副作用:アナフィラキシー様症

(薬品名)	ティーエスワン配合顆粒 T20/ティーエスワン配合顆粒 T25	
(英名)	TS-1 combination granule T20/T25	
(規格・含有量)	T20:1包(0.2g)中 テガフル 20mg ギメラシル 5.8mg オテラシルカリウム 19.6mg T25:1包(0.25g)中テガフル 25mg ギメラシル 7.25mg オテラシルカリウム 24.5mg	
(一般名)	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合顆粒剤	
(メーカー名)	Tegafur・gimeracil・oteracil potassium 大鵬薬品	
【薬価収載日】	2009年5月	
【薬価】	T20:858.20 T25:1,032.10	
【薬効コード】	874229	
【薬効分類名】	代謝拮抗剤	
能・効果	胃癌、結腸・直腸癌、頭頸部癌、非小細胞肺癌、手術不能又は再発乳癌、膀胱癌、胆道癌	
用法・用量	通常、成人には初回投与量(1回量)を体表面積に合せて次の基準量とし、朝食後及び夕食後の1日2回、28日間連日経口投与し、その後14日間休薬する。これを1クールとして投与を繰り返す。(表1)なお、患者の状態により適宜増減する。増減量の段階を40mg、50mg、60mg、75mg/回とする。増量は本剤の投与によると判断される臨床検査値異常(血液検査、肝・腎機能検査)及び消化器症状が発現せず、安全性に問題がなく、増量できると判断される場合に初回基準量から一段階までとし、75mg/回を限度とする。また、減量は通常、一段階ずつ行い、最低投与量は40mg/回とする。	
禁忌	1.本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者 2.重篤な骨髄抑制のある患者 3.重篤な腎障害のある患者 4.重篤な肝障害のある患者 5.他のフッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤を投与中の患者 6.フルシトシンを投与中の患者 7.妊婦又は妊娠している可能性のある婦人	
相互作用	併用禁忌:フッ化ピリミジン系抗悪性腫瘍剤フッ化ピリミジン系抗真菌剤 他剤の作用増強:フェニトイン ワルファリンカリウム 相乗作用:他の抗悪性腫瘍剤、放射線照射等	
副作用	重大な副作用:骨髄抑制、溶血性貧血播種性血管内凝固症候群(DIC)、劇症肝炎等の重篤な肝障害、脱水症状、重篤な腸炎間質性肺炎、重篤な口内炎、消化管潰瘍、消化管出血、消化管穿孔、急性腎不全皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、中毒性表皮壊死症(Lyell 症候群)白質脳症等を含む精神神経障害、急性膀胱炎、横紋筋融解症、嗅覚脱失	
備考	表1	
	体表面積	初回基準量(テガフル相当量)
	1.25m ² 未満	40mg/回
	1.25m ² 以上～1.5m ² 未満	50mg/回

1.5m²以上

60mg/回

(薬品名)	ストラテラカプセル 5mg/ストラテラカプセル 10mg/ストラテラカプセル 25mg
(英名)	STRATTERA
(規格・含有量)	1Cap(アトモキセチンとして): 5mg/10mg/25mg
(一般名)	アトモキセチン塩酸塩 Atomoxetine Hydrochloride
(メーカー名)	日本イーライリリー
【薬価収載日】	2009年6月
【薬価】	1Cap 5mg:264.90 10mg:315.70 25mg:398.10
【薬効コード】	871179
【薬効分類名】	注意欠陥・多動性障害治療剤(選択的ノルアドレナリン再取り込み阻害剤)
効能・効果	小児期における注意欠陥/多動性障害(AD/HD)
用法・用量	通常、小児にはアトモキセチンとして1日0.5mg/kgより開始し、その後1日0.8mg/kgとし、さらに1日1.2mg/kgまで増量した後、1日1.2~1.8mg/kgで維持する。ただし、増量は1週間以上の間隔をあけて行うこととし、いずれの投与量においても1日2回に分けて経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、1日量は1.8mg/kg又は120mgのいずれか少ない量を超えないこと。
禁忌	1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2 MAO阻害剤を投与中あるいは投与中止後2週間以内の患者 3 閉塞隅角緑内障の患者
相互作用	併用禁忌:MAO阻害剤 セレギリン塩酸塩(エフピー) 本剤の作用増強:サルブタモール硫酸塩(静脈内投与等)の全身性投与。吸入投与を除く)CYP2D6阻害剤:パロキセチン塩酸塩水和物等 本剤の作用減弱:他剤の作用増強 β-受容体刺激剤(サルブタモール硫酸塩を除く)、昇圧作用を有する薬剤(ドパミン塩酸塩等)ノルアドレナリンに影響する薬剤 三環系抗うつ剤(イミプラミン塩酸塩等) 選択的セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 塩酸メチルフェニデート等
副作用	重大な副作用:肝機能障害、黄疸、アナフィラキシー様症状
備考	6歳未満及び18歳以上の患者における有効性及び安全性は確立していない。

(薬品名)	リスパダール コンスタ筋注用 25mg/37.5mg/50mg
(英名)	RISPERDAL Consta Intramuscular Injection
(規格・含有量)	1キット(リスペリドンとして): 25mg/37.5mg/50mg
(一般名)	リスペリドン持続性懸濁注射液 Risperidone
(メーカー名)	ヤンセン ファーマ
【薬価収載日】	2009年6月
【薬価】	1キット 25mg:23,520.00 37.5mg:30,997.00 50mg:37,703.00
【薬効コード】	871179
【薬効分類名】	持効性抗精神病剤
効能・効果	統合失調症
用法・用量	通常、成人にはリスペリドンとして1回25mgを2週間隔で臀部筋肉内投与する。なお、初回量は25mgとし、その後、症状により適宜増減するが、1回量は50mgを超えないこと。
禁忌	1 昏睡状態の患者 2 バルビツール酸誘導体等の中樞神経抑制剤の強い影響下にある患者 3 アドレナリンを投与中の患者 4 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
相互作用	併用禁忌 アドレナリン(ボスミン) 本剤の作用増強: アルコール 本剤の作用減弱: 肝代謝酵素誘導作用を有する薬剤(カルバマゼピン、フェニトイン、リファンピシン、フェノバルビタール)、ドパミン作動薬 他剤の作用増強: 降圧薬、CYP2D6を阻害する薬剤(パロキセチン等)、アルコール 他剤の作用減弱: ドパミン作動薬 相乗作用: 中樞神経抑制剤(バルビツール酸誘導体等)
副作用	重大な副作用: 悪性症候群、遅発性ジスキネジア、麻痺性イレウス、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH)、肝機能異常、黄疸、横紋筋融解症、不整脈、脳血管障害、高血糖、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病性昏睡 その他: 不眠症、精神症状、アカシジア、便秘、注射部位疼痛

医薬品変更通知

今回採用医薬品（採用）	従来採用医薬品（削除）
<p>●<u>8月3日より</u></p> <p>・エスポー皮下注用 24000 <u>シリンジ</u> 0.5mL</p>	<p>エスポー皮下注 24000 単位/0.5mL</p>

削除医薬品通知

● <u>8月3日より</u>	
・フルツロンカプセル 200mg	…削除
・ソルコセリル注 2mL	…削除
・ソメリン錠 10mg	…削除
・赤十字アルブミン 20% 20mL	…削除
・エスポー皮下注 24000 単位/0.5mL	…在庫消尽後
・ザジテン点鼻液 8mL	…在庫消尽後
● <u>10月1日より</u>	
・ケナコルト A 軟膏 5g	…販売中止のため 10/1 に削除
・ケナコルト A クリーム 5g	…販売中止のため 10/1 に削除

適応追加

レミケード点滴静注用 100	<p>既存治療で効果不十分な下記疾患</p> <p>関節リウマチ（関節の構造的損傷の防止を含む）</p> <p>（用法・用量）＜関節リウマチ＞</p> <p>**通常、体重 1kg 当たり 3mg を 1 回の投与量とし点滴静注する。初回投与後、2 週、6 週に投与し、以後 8 週間の間隔で投与を行うこと。</p> <p>なお、6 週の投与以後、効果不十分又は効果が減弱した場合には、投与量の増量や投与間隔の短縮が可能である。これらの投与量の増量や投与間隔の短縮は段階的に行う。1 回の体重 1kg 当たりの投与量の上限は、8 週間の間隔であれば 10mg、投与間隔を短縮した場合であれば 6mg とする。また、最短の投与間隔は 4 週間とする。</p>
プログラフカプセル 0.5mg・1mg	<p>難治性（ステロイド抵抗性、ステロイド依存性）の活動期潰瘍性大腸炎（中等症～重症に限る）</p>